麦類赤かび病の適期防除で単収向上

1　普及活動のねらい

海部北部地域では、小麦の平均単収は県平均単収を下回って推移している。近年は春季の気温が高温で推移していることから、麦類赤かび病の発生が増加傾向にある。令和６年産では赤かび病による減収が発生していた。一部ほ場では赤かび病の防除適期を逃していたため、小麦生産農家に対し ICT ツールを活用した適期防除実施を支援した。



写真：小麦品種「ゆめあかり」の開花期

2　普及活動の成果

対象農家５戸のうち４戸は赤かび病の発生割合が 0.5%未満であった。１戸は適期より早く防除したため２％と発生が多くなったが、収量に影響を及ぼすほどではなかった。小麦単収は、「きぬあかり」が 528kg/10a、「ゆめあかり」が 456kg/10a で、それぞれ県単収を上回った。

品種	農家	播種日	AgriLook予測		実測		防除実施日	赤かび病発生割合
			出穂期	開花期	出穂期	開花期		
								%
ゆめあかり	A	11/25	4/17	4/26	4/18	4/27	4/27	0.5
	B	11/27	4/19	4/27	4/17	4/27	4/26	0.2
	C	12/3	4/20	4/28	4/19	4/28	4/28	0.1
	D	12/13	4/22	4/30	4/21	4/29	4/11	2.0
	E	12/14	4/22	4/30	4/22	4/29	5/2	0.1

使用薬剤　　ピシフルメトフェン水和剤

発生量調査日　令和７年５月23日

3　普及活動の内容

ICT ツールで出穂期、開花期の予測をもとに「赤かび病防除情報」を作成し、適期防除を支援した。ICT ツールの活用により出穂期よりも前に予測データを情報提供することで防除を呼びかけることができ、適期防除につながった。

赤かび病調査ほ場を５カ所設置し、出穂期及び開花期を確認し、収穫前に赤かび病の発生状況を調査した。農家との収穫前のほ場巡回や次作に向けた研修会時に、調査結果をもとに適期防除の重要性を説いた。

重点課題名	２　海部地域の水田作を担う経営体の安定維持
普及事項名	（３）　ICT ツールを活用した麦類赤かび病の適期防除の推進